

韓国語動詞分類試論

蔡, 京希
九州大学大学院修士課程

權, 奇洙
九州大学大学院修士課程

<https://doi.org/10.15017/10439>

出版情報 : 文献探究. 19, pp.6-18, 1987-03-31. 文献探究の会
バージョン :
権利関係 :

韓国語動詞分類試論

蔡 京希
權 奇洙

1 はじめに

今日、日・韓国語の対照研究は様々な面から行われている。特に、文法の面においては、両国語に良く似た事象が存在するため、敬語や助詞・助動詞の対照研究が幅広く行われていると言えよう。しかし、本研究では、文法の面における動詞の役割が特に多大であるという観点に立ち、動詞の性格を明らかにする事によって文法研究を一層深めようとする、その緒とするものである。

従来の韓国語の動詞分類は、自動詞・不完全自動詞・他動詞・不完全他動詞の四種類に分類する方法¹⁾、或るいは、自動詞と他動詞の二種類に分類する方法²⁾、①自立動詞と依存動詞・②自動詞と他動詞・③完全動詞と不完全動詞・④能動詞と被動詞・⑤規則動詞と不規則動詞の様に、レベルを異にする五つの指標によって動詞を二分していく方法³⁾、状態動詞と非状態動詞の様に動詞のアスペクト的側面に注目して分類する方法⁴⁾が行われている。

かなり研究が進んでいると思われる日本語の動詞の分類については暫くおいて、ここでは先ず、韓国語の動詞の分類を行う事とする。先学の韓国語の動詞分類、及び日本語の動詞分類の方法に学ぶ点も多かったが、韓国語の動詞を形態論的立場から分類する点に本研究の独自性も存する筈である。そして、韓国語の動詞の分類を明らかにする事によってこそはじめて、日・韓国語の対照研究を深める事が出来ると考えられる。

2 韓国語の動詞分類の方法

今回、分類の対象とした動詞は、韓国語の辞典⁵⁾の中で、「名詞+~하다」(~する)類の動詞と基本動詞から派生した動詞を除いた約百六十語の動詞である。

これらを動詞の文法的ふるまい方と密接な関係を有すると考えられるヴォイス・アスペクトを表す助動詞・助詞を指標として、各動詞がそれらの指標と接続するかないかという形式面から分類した上、それぞれの動詞グループの性格・特性の考察を試みることにする。

具体的には次の様な指標である。アスペクトの一側面を表す補助動詞、①「아/어 버리다」(~てしまう)、②「아/어 보다」(~てみる)、④「아/어 가다」(~していく)、⑤「아/어 놓다(두다)」(~ておく)、⑦「하는중이다」(~ている所である)、⑧「아/어 있다」(~ている・てある)、⑨受動態⁶⁾「이, 히, 리, 기」(~れる・られる)、⑥「아/어 지다」(~になる)、⑩使役態⁷⁾「아, 히, 리, 기, 우, 구, 추」(~せる・させる)、③助詞「을/를」(を~)を指標として用いる。

さて、以上の文法形式と韓国語の動詞とが接続するかないかを内省し、その接続の状況を一覧表として纏めてみると、末尾に附載した<表1>の如くなる。表中、○は自然にいうもの、*は言わないものである。この判定には、個人差・年齢差・地域差等の諸要因によって語彙的なゆれが存在する事と思われるが、以下に述べるグループそのものの消

失はないと考えて良いと思われる。

<表1>についての説明を加えておく。

前述の指標によって、韓国語の動詞を分類するとA~Kのグループに分けられる。

Aグループに属する動詞は、「使役」「受身」等の全ての指標と接続する事が出来る。

例えば、「**베다** (切る)」という動詞は、

베어 버리다・**베어보다**・**~을 베다**・**베어가다**・**베어 놓다(두다)**・**베어 지다**・**베고 있다**・**베이다**・**베이다**。

と言える。

Bグループの動詞は、「使役」を後接する事が出来ず(例えば「**잘리다**」の様な派生動詞形式接尾辞を含んで成立した動詞は使役の意味は持たず、受身の意味を表す)、その他の要素とは接続する。

Cグループの動詞は、「受身」「使役」を後接する事が出来ない(「**구부리이다**」は「使役」「受身」の意味を持たない)。

以下、同様に、Dグループでは「使役」「受身」「**아/어 있다**」、Eグループでは「使役」「受身」「**아/어 있다**」「**하는중이다**」、Fグループでは「使役」「受身」「**아/어 있다**」「**아/어 지다**」、Gグループでは「使役」「受身」「**아/어 있다**」「**아/어 지다**」「**아/어 놓다(두다)**」、Hグループでは「使役」「受身」「**아/어 있다**」「**아/어 지다**」「**아/어 놓다(두다)**」「**아/어 가다**」、Iグループでは「使役」「受身」「**아/어 있다**」「**하는중이다**」「**아/어 지다**」「**아/어 놓다(두다)**」「**아/어 가다**」「**을/를**」、Jグループでは「使役」「受身」「**아/어 있다**」「**하는중이다**」「**아/어 지다**」「**아/어 놓다(두다)**」「**아/어 가다**」「**을/를**」「**아/어 보다**」を後接する事が出来ず、Kグループではこれら十の全ての指標を後接する事が出来ない。

以上の各グループと前述の指標との接続状況を分かりやすく纏めると次の様になる。

<表2>

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K
使役	○	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
受身	○	○	*	*	*	*	*	*	*	*	*
아/어 있다	○	○	○	*	*	*	*	*	*	*	*
하는중이다	○	○	○	○	*	○	○	○	*	*	*
아/어 지다	○	○	○	○	○	*	*	*	*	*	*
아/어 놓다(두다)	○	○	○	○	○	○	*	*	*	*	*
아/어 가다	○	○	○	○	○	○	○	*	*	*	*
을/를	○	○	○	○	○	○	○	○	*	*	*
아/어 보다	○	○	○	○	○	○	○	○	○	*	*
아/어 버리다	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	*

さて、こうして形態的諸特徴から得られた韓国語の動詞のグループは、動詞のどの様な

(8)

性格を反映したものであろうか。次節において、それらの動詞グループの範疇的意義を考察してみる事にしたい。

3 韓国語動詞分類の意味について

AからKまでのグループは、大きく「動き」を表す動詞(ABCDEFGHIJ)と「状態」性の非常に強い動詞(K)とに二分出来るように思われる。Kの「걸리다」(凝る)は、日本語においては、「肩が凝っている」「肩が凝る」の様に用いる事が出来、一見、日本語のいわゆる「状態動詞」と対応しない様に思われるが、連体修飾の形に直した場合、「*凝る肩」「*凝る趣味」等の様に、日本語においても「凝る」という動詞は連体形では用いる事が出来ない(「肩が凝る原因」の様には使えるが、この場合「原因」が「凝る」わけではない)。恐らく、日本語の「凝る」という動詞には、「状態」以外に以下に述べる「動き」の性格を有しているのであろう。しかし、韓国語にはこの様な用法はないといえよう。

更に「動き」を表す動詞は、「変化」の「動き」を表す動詞(J)と「動作」の「動き」を表す動詞とに分ける事が出来そうである。Jの「끌이다」(捲える)「늘다」(のびる)等の動詞は、日本語においても物事の「変化」はあるといえようが、「動作」の側面は有しない様である。日本語におけるいわゆる「自動詞」の中で最も「自動詞」の特徴を備えている動詞群は、J・Kと対応していると言って良さそうである。「状態動詞」といわれる動詞群も、このグループに含まれる。

さて、一方、Aグループの動詞は、<表1>の全ての指標との接続が可能である。これらの動詞は人間がある対象に「動作」を及ぼす事だけを強調した動詞で、逆に人間にはその「動作」の影響が及ばないという側面を持つ動詞のグループである。例えば、「사람이 나무를 베다」(人が木を切る)の「베다」(切る)という動詞は、人間が対象(この場合「木」)に対して一方的に働きかける動詞である。韓国語における「他動詞」の中でも最も「他動詞」らしい特徴を備えた動詞群がこのグループである。

Bグループの動詞は、「使役」の形にする事が出来ない点でAグループと違いがある。派生動詞形成接尾辞「아, 히, 리, 기, 우, 구, 추」によって作られた動詞は、「아, 히, 리, 기」を下接した場合、「使役」の意味を表すのではなく、むしろ、「受身」の意味を表すと考えられる。

나는 그림을 걸었다. (私は絵を掛けた)

선생님이 나에게 그림을 걸리었다. (先生が私に絵を掛けさせた)

나에게 그림이 걸리었다. (私に絵を掛けられた)

この事実を説明する事は難しいのであるが、前述のAグループと比較して説明を試みるならば、次の様になるのではなからうか。Aグループの動詞(例えば「베다 切る」を「使役」にすると次の如くなる。

(例) 내가 나무를 베다. (私が木を切る) ○

선생님이 나에게 나무를 베인다. (先生が私に木を切らせる) ○

나에게 나무를 베인다. (私に木を切られる) *

つまり、括弧内の日本語でも判明する様に、「베다」(切る)という動詞は「私に木を切

られる」という形では成立しない。ところが、Bグループの動詞は「私に絵を掛けられる」という言い方が出来るのである。恐らく、韓国語でも日本語のこの様な語感と対応しているのではないかと言う事が出来る（勿論、語彙的な異同はあると考えられる）。「私に絵が掛けられる」という言い方が出来る場合、韓国語では「受身」の意味を優先させると考えられる。AグループとBグループの範疇的意義は、「動作」が対象にのみ及ぶものか、或るいは「動作」の影響が逆に人間にも影響を与えるかの違いではないかと考えられる。Aグループがいわゆる「他動詞」らしい「他動詞」である事と関係してこよう。Bグループを始め、以下順に、人間の「動作」の側面と共に「動作」の影響が人間にも影響をもたらしてくる度合いが高まっていく傾向にある様である。

Cグループ以下の動詞が「受身」を形成しない理由は、「受身」表現を表す方法（接尾辞・補助動詞による方法）の一つである補助語幹の「아、히、리、기」が動詞の内部に含まれているからであると言えよう。何故、これらの動詞の内部にそれらの補助語幹が含まれているかという問題は、歴史的観点も必要とするが、Cグループ以下の動詞の範疇的意義として人間の「動作」の側面と共に「動作」が人間に与える影響の度合いが高いという点に意味的必然性があったものと考えられる。

Dグループに属する動詞には、色々な範疇的意義を有するものがある様で、前述の指標のみでは分類し難い点がある。この点に関しては今後の課題としなければならない。Dと次に述べるEとを比較すると相対的に、Dのほうが「動作」性が強い。又、Eのほうが「動作」性と共に「状態」性を有し、かつ、Eはその「状態」性に時間的幅があるグループであると言えるのではなからうか。例えば、「숙이다（だます）・미루다（延期する）・믿다（信じる）・늘리다（増やす）等は、日本語においても「～ている」を後接して「進行」的意味となる事が多い。

Fグループに属する動詞は、方向を表す「에・에게」（に、へ）の助詞が付くグループ（F①）と付かないグループ（F②）とに下位分類出来るかもしれない。いわゆる「授受動詞」がこのグループに属する。

Gグループに属する動詞は、いわゆる「移動動詞」である。「移動動詞」は、日本語では「を格」を取るが、これが目的格の「を」とは様相を異にし、又、アスペクト的にも「他動詞」らしい「他動詞」とは違う点が存する事に関しては、既に先学の御指摘の通りである。韓国語においては、いわゆる「完了」を表す「아/이 놓다（두다）」（～ておく）を後接しない。

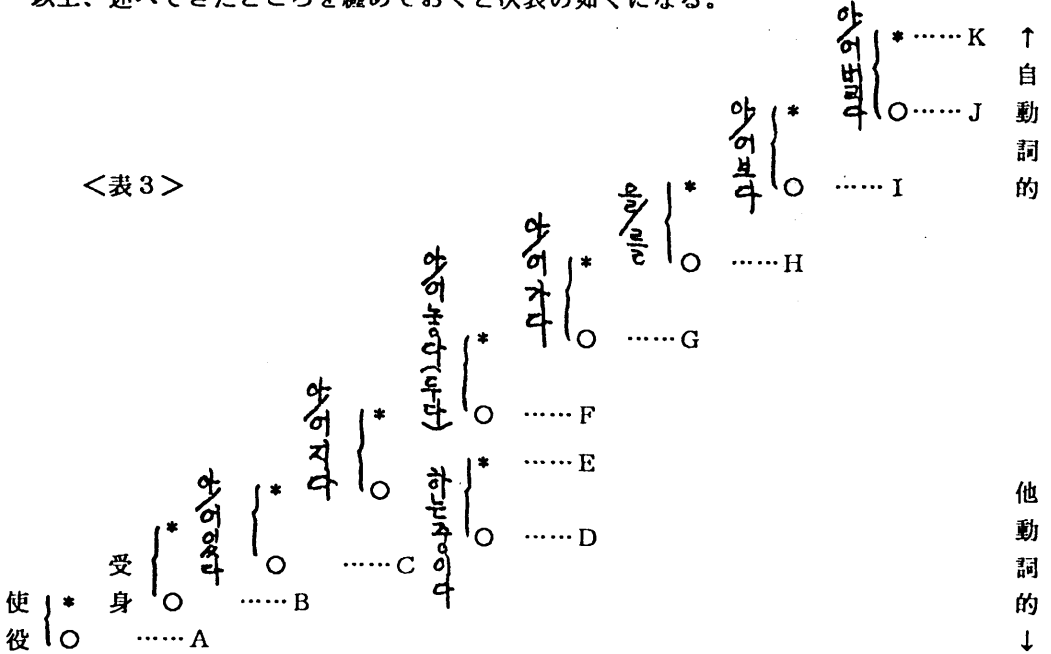
Hグループに属する動詞（「빨다」「매리다」）は、行為者の「動作」が瞬間的に始まってその「動作」そのものが即座に終わってしまう「動作」を表すものが多く、行為者の「動作」が行われる過程を表す「아/이 가다」（～していく）が後接しない。

Iグループに属する動詞は、日本語の動詞分類における「自動詞」に含まれるものである。韓国語の動詞の分類ではI・J・Kが「自動詞」と対応するが、Iグループには「動作」性があるのに対し、J・Kには「状態」・「変化」的側面しか持たないと考えられる。

以上、韓国語の動詞の分類が動詞のどの様な範疇的意義を反映するかという点について述べてきた。特に、日本語の動詞分類の「自他性」との関連については、Aグループから順にKグループにいくに従って、「自動詞」的となる傾向が顕著である。従来、韓国語の動詞の「自他性」については、前述の「自動詞・不完全自動詞・他動詞・不完全他動詞」

の如く四種類に分類する方法が行われてきた。しかし、動詞の「自他性」という問題は恐らく、「自動詞」「他動詞」という様に二分（乃至は四分）される様な類のものではなく、動詞の「動き」乃至は「状態」の在り方に従って連続的なものと考えたほうが良いのではなからうか。

以上、述べてきたところを纏めておくと次表の如くなる。



4 他の指標との関連

前述の指標は、現段階では韓国語の動詞を分類するのに最も適当かと考えたものであるが、これ以外の指標とこの動詞分類との関連を考えておきたい。

韓国語のテンス表現は、活用語尾によって表され、一般的に現在「는、し」・過去「았」・未来「겠」に分けられる。この様なテンス表現はA～Kの全ての動詞グループと接続するので、ここでは指標として用いなかった。

「動き」の進行を表す方法は、①「～고 있다」(～ている)・②「아/어 가다」(～ていく)・③「아/어 오다」(～てくる)の三種類がある。①の場合は、全てのグループと結合する。意味的には上接の動詞が「動作」的であるか「状態」的であるかによって、「動作」或は「状態」の「進行」を表す。②は、A～Gのグループの動詞とは結合しやすいが、H～Kグループの動詞とは接続しにくい。「状態」的な側面を有する動詞とは付きにくい様である。

(例) 학생들은 웃어 (물어) 가다 (學生達は笑って (泣いて) いく) *

③は全ての動詞と接続するが、E・J・Kグループの動詞と接続すると前の動詞の表す状態の変化が進行中である事を示す。

否定表現は、副詞「안(아니)」や「못」と用言「아니다」(아니하다・않다)「못하다」
「말다」で表す事が出来る。即ち、①「안(아니) + 用言」・「動詞の語幹 + 지 않다
(아니하다)」, ②「못 + 用言」・「動詞語幹 + 지 못하다」, ③「動詞の語幹 + 지
말다」による方法である。A～Iのグループは、①②の方法が可能であるが、J・Kのグ
ループは①は可能であるが、②の方法は不可能である。③の方法は、A～Kのグループと
接続しないが、命令・勧誘の意味を有する特定の場合には接続しやすい。

- (例) 여기에 쓰레기를 버리지 말다 (ここにゴミを捨てない) *
- 여기에 쓰레기를 버리지 맙시다 (" 捨てないで下さい) ○
- 여기에 쓰레기를 버리지 말아라 (" すてるな) ○

「아/어 놓다 (두다)」(～ておく)は、主にいわゆる「他動詞」と接続し、その動
詞の表す「動作」を終えた事、或いは、終わった「状態」をそのまま保持・持続する事を
意味する。これは、A～Fグループの動詞とは接続するが、G～Kグループの動詞とは接
続しにくい。

- (例) 아기가 울어 놓다 (두다) (赤ん坊が泣いておく) *
- 인적이 끊어 놓다 (두다) (人影がなくなっておく) *
- 머리가 주시어 놓다 (두다) (頭が針で刺すように痛んでおく) *

「아/어 버리다」(～てしまう)は、或る「動作」・「状態」が「完了」・「終結」
を表すものである。Kグループの動詞とは結合し難い。

- (例) 나는 가끔 옆구리가 절리어 버린다 (私は時々脇腹が刺し込んでしまう) *

「아/어 주다」(～てやる、～てあげる)は、A～Dのグループの多くの動詞と接続
するが、Eの一部・F～Kのグループの動詞の大部分とは接続しにくい。

- (例) 그는 자기 자신을 학생이라고 속이여 주다
(彼は自分自身を学生だと偽ってやる) *

- 친구가 시간 약속을 어기여 주다 (友達が時間の約束を違ってやる) *

以上によって判明する様に、本研究の指標によって得られた動詞分類は、叙上の指標に
よって得られる動詞分類と密接な対応を示している。従って、今後、これらを加えた形で
の研究が必要となるが、逆に言えば本研究の指標が決して無意味ではない事を表している
とも言えよう。と同時に、今後、韓国語の動詞及び文法の研究をする際の基本となるもの
と言えるのではないかと考えられる。

5 韓国語の動詞分類と副詞との共起性

最後に、以上述べてきた韓国語の動詞分類と韓国語の副詞との関係について述べる。

ここでは、韓国語の副詞「계속」・「급방」・「빨써」・「천천히」・「교대로」・「
잠시」・「점점」・「곧」を取り上げて考察したい。

前述の韓国語のアスペクトの形式を、①「아/어 버리다」(～てしまう)・②「아/
어 보다」(～てみる)・④「아/어 가다」(～ていく)・⑤「아/어 놓다 (두다)」
(～ておく)・⑥「아/어 지다」(～になる)・⑧「아/어 있다」(～ている/～て
ある)という様に番号で表す事とする(〈表1〉参照)。これらと前述の副詞との共起性
を纏めると〈表4〉を得る。

<表4>韓国語の副詞とアスペクトとの共起性

韓国語 の 副詞	アスペクト の 形式		① 「아/어 버리다」 (~てしまう)	② 「아/어 보다」 (~てみる)	④ 「아/어 가다」 (~ていく)	⑤ 「아/어 놓다 (두다)」 (~ておく)	⑥ 「아/어 지다」 (~に なる)	⑧ 「다 /어 있다」 (~て いる ~て ある)
	ABC	DEFGHIJ	ABC	DEFGHI	ABCDEF	ABCDEF	ABCDE	ABC
계 속 (ずっと)	○*	○****○	○○○○○○△○*	○○○○○○○	○○○○○*	○○*○○	*○*	
금 방 (只今すぐ)	○○○○○○○○○○	○○○***△○*	*****	○○○○○○○	○○○○○	***		
벌 써 (もう)	○○○○○○○○○○	○○○**○△○*	*****○	○○○○○○○	○○○○○	○○○		
천 천 히 (ゆっくり)	○○○***○***	○○○○○○△○*	○○○○*○○	○○○○○*	○○○**	***		
교 대 로 (かわるがわる)	○○○***○○○*	○○○○○○△○○	○○○○○○○	○○○○○○○	○○○○○*	***		
잠 시 (しばらく)	*****○	○○○○*○△○○	***○○*○	○○○○**	*****	***		
점 점 (だんだん)	*****○	*****	○○○○○*	*****	○*○○○	***		
곧 (すぐこれから)	○*****	*****	*****	*****	○○○**	***		

○は言うもの。*は言わないもの。△は言うものと言わないものが混在しているもの。

先ず、①に関してであるが、「점점」(だんだん)・「잠시」(しばらく)といった「状態」や「変化」を修飾する韓国語の副詞は、Jの動詞グループとは共起するが、それ以外の動詞グループとは共起しない。逆に「천천히」(ゆっくり)・「교대로」(かわるがわる)といった「動作」の時間の幅に関する韓国語の副詞はD・E・F・Jのグループとは共起し難い。

次に、③に関してであるが、「계속」(ずっと)・「곧」(すぐ)・「벌써」(もう)・「천천히」(ゆっくり)等の「動作」の時間の幅や「動作」の「完結性」を表す副詞は、Iグループの動詞とは共起し難いと言えよう。又、「곧」(すぐ)・「벌써」(もう)という韓国語の副詞は、D・Eグループとは共起し難い。

④に関しては、「곧」(すぐ)・「점점」(だんだん)という韓国語の副詞は、Gグループの動詞とは共起し難い。又、「곧」(すぐ)・「벌써」(もう)・「천천히」(ゆっくり)といった副詞は、Eグループと共起し難い。

⑤に関しては、「계속」(ずっと)・「잠시」(しばらく)等、時間の幅を修飾する韓国語の副詞はFグループの動詞とは結合し難く、それ以外の動詞グループとは共起しやすい様である。

本研究の韓国語の動詞分類がアスペクト①～⑤を関与させて成立したものである以上、この様な副詞と韓国語の動詞のグループとの共起性の或る種の傾向性は、アスペクトとの関係で捉えるべきものと考えられるが、ここでは問題を提起するに留め、今後の研究課題としておきたい。

注1 朴勝彬 『朝鮮語学』1935(影印発行 1972 通文館)

注2 高永根 『標準国語文法論』塔出版社 1985

注3 金亨奎 『増補版国語学概論』一潮閣 1985

注4 崔昌烈 『韓国語의意味構造』翰信文化社 1983

注5 李熙昇 『어센스国語辞典』民衆書林 1986

注6 受身の表現には、接尾辞の「이, 히, 리, 기」で表す場合と補助動詞「아/어 지다」、「受身」の意味を持つ動詞の「되다, 발다, 당하다」、「(「名詞+する」→名詞+「되다, 발다, 당하다」)で表す場合があるが、ここで受身というのは接尾辞で表す方法を意味する。

注7 使役の表現には、接尾辞「이, 히, 리, 기, 우, 구, 추」で表す場合と補助動詞「하다, 만들다」で表す場合があるが、ここで使役というのは接尾辞で表す方法を意味する。「使役」の補助動詞「動詞の語幹+게 하다(만들다)」による表現は、動詞の全てに接続しやすいのでここでは取り扱わない。

注8 奥村三雄先生「日本語動詞の分類」プリント

韓国語の判定にあたっては、九州大学国語学・国文学研究室の院生である蔡 京希・權 奇洙・盧 善影・婁 錫柱の内省によった。これによって權 奇洙が資料として纏め、その結果を奥村三雄先生の演習で発表し、レポートとして提出した。本稿は、これを基として、蔡 京希・權 奇洙が協同して作成したものである。

最後に、御指導戴いた奥村三雄先生・諸先生方及び研究室の方々々に心から御礼申し上げます。

<表1> 韓国語の動詞分類表

動詞の分類記号	韓国語動詞	指標	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
			아/어/오/우/미다 てしまう	아/어/보다 てみる	을/를 を	아/어/가다 ていく	아/어/놓다(두다) ておく	아/어/지다 になる	아/어/놓았다 ている所である	아/어/있다 ている	受動	使役
A	베다	(切る)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	묻다	(埋める)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	바르다	(ぬる、つける)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	싣다	(載せる)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	새다	(刻む)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	안다	(載せる)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	말다	(巻く)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	찢다	(裂く)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	싸다	(編む)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	엮다	(包む)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
B	걸다	(かける)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	*
	꽂다	(さしこむ)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	*
	통다	(通す)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	*
	막다	(塞ぐ)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	*
	뭉다	(しばる)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	*
	빼앗다	(奪う)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	*
	누르다	(押さえる)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	*
	나누다	(分ける)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	*
	엮다	(繩等をなう)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	*
	파다	(掘る)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	*
꺾다	(折る)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	*	
	넓히다	(広げる)	○	○	○	○	○	○	○	○	*	*
	벗기다	(剥ぐ)	○	○	○	○	○	○	○	○	*	*
	비비다	(擦る)	○	○	○	○	○	○	○	○	*	*
	다듬다	(整える)	○	○	○	○	○	○	○	○	*	*

		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
데우다	(暖める)	○	○	○	○	○	○	○	○	*	*
차리다	(準備する)	○	○	○	○	○	○	○	○	*	*
붙이다	(付ける)	○	○	○	○	○	○	○	○	*	*
식히다	(冷ます)	○	○	○	○	○	○	○	○	*	*
안기다	(抱かせる)	○	○	○	○	○	○	○	○	*	*
앉히다	(座らせる)	○	○	○	○	○	○	○	○	*	*
옮기다	(移す)	○	○	○	○	○	○	○	○	*	*
적시다	(濡らす)	○	○	○	○	○	○	○	○	*	*
꾸리다	(まとめてくくる)	○	○	○	○	○	○	○	○	*	*
지피다	(たきつける)	○	○	○	○	○	○	○	○	*	*
낮추다	(低める)	○	○	○	○	○	○	○	○	*	*
받치다	(支える)	○	○	○	○	○	○	○	○	*	*
빼다	(抜く)	○	○	○	○	○	○	○	○	*	*
포기다	(畳む)	○	○	○	○	○	○	○	○	*	*
벌리다	(開ける)	○	○	○	○	○	○	○	○	*	*
구기다	(しわを宍らせる)	○	○	○	○	○	○	○	○	*	*
담그다	(浸す)	○	○	○	○	○	○	○	○	*	*
비우다	(空ける)	○	○	○	○	○	○	○	○	*	*
새기다	(刻む)	○	○	○	○	○	○	○	○	*	*
굽다	(焼く)	○	○	○	○	○	○	○	○	*	*
긋다	(線を引く)	○	○	○	○	○	○	○	○	*	*
빚다	(醸す)	○	○	○	○	○	○	○	○	*	*
맞추다	(組み合わせる)	○	○	○	○	○	○	○	○	*	*
줄이다	(減らす)	○	○	○	○	○	○	○	○	*	*
구부리다	(屈める)	○	○	○	○	○	○	○	○	*	*
휘다	(曲げる)	○	○	○	○	○	○	○	○	*	*
질이다	(漬ける)	○	○	○	○	○	○	○	○	*	*
굽히다	(屈める)	○	○	○	○	○	○	○	○	*	*
오그리다	(縮める)	○	○	○	○	○	○	○	○	*	*
여미다	(きちんと合わせる)	○	○	○	○	○	○	○	*	*	*
일으키다	(起こす)	○	○	○	○	○	○	○	*	*	*
행구다	(すすぐ)	○	○	○	○	○	○	○	*	*	*
건드리다	(ふれる)	○	○	○	○	○	○	○	*	*	*

C

D

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
뭉 개 다 (練りつぶす)	○	○	○	○	○	○	○	*	*	*
고 르 다 (均らす)	○	○	○	○	○	○	○	*	*	*
고 치 다 (直す)	○	○	○	○	○	○	○	*	*	*
숨 기 다 (隠す)	○	○	○	○	○	○	○	*	*	*
끄 르 다 (外す)	○	○	○	○	○	○	○	*	*	*
넣 다 (入れる)	○	○	○	○	○	○	○	*	*	*
베 끼 다 (写す)	○	○	○	○	○	○	○	*	*	*
부 수 다 (こわす)	○	○	○	○	○	○	○	*	*	*
뿜 다 (噴く)	○	○	○	○	○	○	○	*	*	*
쏟 다 (零す)	○	○	○	○	○	○	○	*	*	*
갈 다 (取り替える)	○	○	○	○	○	○	○	*	*	*
거 두 다 (収穫する)	○	○	○	○	○	○	○	*	*	*
건 지 다 (引き上げる)	○	○	○	○	○	○	○	*	*	*
따 다 (摘む)	○	○	○	○	○	○	○	*	*	*
만 들 다 (作る)	○	○	○	○	○	○	○	*	*	*
만 지 다 (触る)	○	○	○	○	○	○	○	*	*	*
모 으 다 (集める)	○	○	○	○	○	○	○	*	*	*
세 우 다 (立てる)	○	○	○	○	○	○	○	*	*	*
일 구 다 (耕す)	○	○	○	○	○	○	○	*	*	*
재 다 (計る)	○	○	○	○	○	○	○	*	*	*
찾 다 (探す)	○	○	○	○	○	○	○	*	*	*
캐 다 (ものを掘る)	○	○	○	○	○	○	○	*	*	*
젖 다 (漕ぐ)	○	○	○	○	○	○	○	*	*	*
읊 다 (詠む)	○	○	○	○	○	○	○	*	*	*
깨 우 다 (目を覚ます)	○	○	○	○	○	○	○	*	*	*
내 리 다 (降ろす)	○	○	○	○	○	○	○	*	*	*
좁 히 다 (狭める)	○	○	○	○	○	○	○	*	*	*
지 키 다 (守る)	○	○	○	○	○	○	○	*	*	*
도 리 다 (抉る)	○	○	○	○	○	○	○	*	*	*
보 태 다 (加える)	○	○	○	○	○	○	○	*	*	*
맡 기 다 (任せる)	○	○	○	○	○	○	○	*	*	*
빌 리 다 (借りる)	○	○	○	○	○	○	○	*	*	*
뻘 리 다 (蒔く)	○	○	○	○	○	○	○	*	*	*

		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
D	오 리 다 (切りとる)	○	○	○	○	○	○	○	*	*	*
	이 다 (聳く)	○	○	○	○	○	○	○	*	*	*
	잇 다 (結ぶ)	○	○	○	○	○	○	○	*	*	*
	채 우 다 (満たす)	○	○	○	○	○	○	○	*	*	*
	쫄 다 (返す)	○	○	○	○	○	○	○	*	*	*
	매 우 다 (鑄掛ける)	○	○	○	○	○	○	○	*	*	*
	씩 우 다 (被せる)	○	○	○	○	○	○	○	*	*	*
	치 우 다 (片付ける)	○	○	○	○	○	○	○	*	*	*
	지 우 다 (消す)	○	○	○	○	○	○	○	*	*	*
	죽 이 다 (殺す)	○	○	○	○	○	○	○	*	*	*
	고 다 (消す)	○	○	○	○	○	○	○	*	*	*
	쪼 개 다 (割る)	○	○	○	○	○	○	○	*	*	*
	뛰 기 다 (跳ねる)	○	○	○	○	○	○	○	*	*	*
	외 치 다 (叫ぶ)	○	○	○	○	○	○	○	*	*	*
	두 드리 다 (叩く)	○	○	○	○	○	○	○	*	*	*
마 치 다 (終わる)	○	○	○	○	○	○	○	*	*	*	
던 지 다 (投げる)	○	○	○	○	○	○	○	*	*	*	
E	이 루 다 (成し遂げる)	○	○	○	○	○	○	*	*	*	*
	속 이 다 (騙す)	○	○	○	○	○	○	*	*	*	*
	어 기 다 (守らない)	○	○	○	○	○	○	*	*	*	*
	미 루 다 (延期する)	○	○	○	○	○	○	*	*	*	*
	부 추 기 다 (おだてる)	○	○	○	○	○	○	*	*	*	*
	믿 다 (信じる)	○	○	○	○	○	○	*	*	*	*
	돌 이 키 다 (かえりみる)	○	○	○	○	○	○	*	*	*	*
	늘 리 다 (殖やす)	○	○	○	○	○	○	*	*	*	*
	늘 추 다 (延ばす)	○	○	○	○	○	○	*	*	*	*
키 우 다 (育てる)	○	○	○	○	○	○	*	*	*	*	
F	밝 히 다 (明るくする)	○	○	○	○	○	○	*	*	*	*
	가 르 치 다 (教える)	○	○	○	○	○	*	○	*	*	*
	말 하 다 (言う)	○	○	○	○	○	*	○	*	*	*
	배 우 다 (習う)	○	○	○	○	○	*	○	*	*	*
	주 다 (やる)	○	○	○	○	○	*	○	*	*	*
가 지 다 (持つ)	○	○	○	○	○	*	○	*	*	*	

		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
	마 추 다 (跳える)	○	○	○	○	○	*	○	*	*	*
	쉬 다 (休む)	○	○	○	○	○	*	○	*	*	*
	즐 기 다 (楽しむ)	○	○	○	○	○	*	○	*	*	*
G	지 나 다 (通り過ぎる)	○	○	○	○	*	*	○	*	*	*
	떠 나 다 (離れる)	○	○	○	○	*	*	○	*	*	*
	뛰 다 (走る)	○	○	○	○	*	*	○	*	*	*
H	달 리 다 (走る)	○	○	○	○	*	*	○	*	*	*
	뱉 다 (吐く)	○	○	○	*	*	*	○	*	*	*
I	때 리 다 (殴る)	○	○	○	*	*	*	○	*	*	*
	멈 비 다 (飛びかかる)	○	○	*	*	*	*	*	*	*	*
	머 들 다 (騒ぐ)	○	○	*	*	*	*	*	*	*	*
	짖 다 (吠える)	○	○	*	*	*	*	*	*	*	*
	스 치 다 (すれる)	○	○	*	*	*	*	*	*	*	*
	우 다 (泣く)	○	○	*	*	*	*	*	*	*	*
	웃 다 (笑う)	○	○	*	*	*	*	*	*	*	*
J	졸 다 (居眠りする)	○	○	*	*	*	*	*	*	*	*
	지 다 (負ける)	○	○	*	*	*	*	*	*	*	*
	끊 어 다 (絶える)	○	*	*	*	*	*	*	*	*	*
K	늘 어 다 (伸びる)	○	*	*	*	*	*	*	*	*	*
	답 리 다 (足りない)	○	*	*	*	*	*	*	*	*	*
	당 기 다 (心が動く)	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
	떨 리 다 (おののく)	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
	뿌 리 다 (飛び散る)	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
	저 리 다 (痺れる)	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
	결 리 다 (凝る)	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
	마 치 다 (胸つかえる)	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
	우 시 다 (うずく)	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
	짚 이 다 (思い当たる)	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
	들 다 (滴る)	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
	누 다 (和らぐ)	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
	땀 다 (ときめく)	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*
지 저 키 다 (さえずる)	*	*	*	*	*	*	*	*	*	*	